

令和3年度 ブロック研修会

10月2日・10月3日

一年延期されてのブロック研修はオンラインでの開催となりました。現地開催とはまた違う、事前準備、撮影・編集・配信等たくさんの皆様にご協力いただき無事に開催することができました。全国からも沢山の会員の皆様にご参加いただきありがとうございました。ご裁可いただきましたお家元様はじめ、総本部、主管青年部、ブロック役員の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。



令和3年度 裏研合同行事

10月16日 19:00~21:00

副ブロック長 檜垣良多 (京都西青年部)

本年度の裏千家学生茶道研究会との合同行事はオンラインにて交趾焼について中村正史先生にご講演いただきました。年初どうのように合同行事を進めていか相談したところ「着物」「菓子」「陶芸」と3つのテーマで本年度は活動していく予定とのことでした。そこで「陶芸」を青年部との合同行事にしようとなり、合同行事を中村先生のご講演、その後、学生のみで交趾絵付け体験を開催しました。ご講演では大変興味深いお話を頂戴しました。交趾焼の由来、制作過程、各種作品の説明と約一時間半のご講演でしたが、質疑応答も含め大変貴重な時間となり青年部、学生共に学び多き時間になったかと思えます。ご講演の中で「交趾焼は茶の湯、茶人に育てられ今日まで続いた。」とおっしゃっておられたのを聞き、今後も茶道と関わる中で先生のお言葉を思いだし、焼物と接していきたいと思えます。中村先生に感謝申し上げるとともに、裏研役員の皆様、準備から当日まで誠にありがとうございました。



編集後記

同風あらかると 37 を無事に発行することができました。ご協力いただいた皆さま方には心より御礼申し上げます。今年はナショコンが開催される予定です。ぼちぼちと行事が戻ってくる事を楽しみに、皆様と膝を突き合わせ、一盃を共にすることを願います。どうぞ今年も近畿第一ブロックを引き続きよろしく願いいたします。

広報委員会委員長 宮本悠介 (京都北青年部)

茶道裏千家淡交会青年部
近畿第一ブロック



QRコードからアクセス



近畿第一ブロック HP



近畿第一ブロック FB

機種や読み取りソフトによっては読み取れない場合があります。操作方法は、お使いの機種やソフトによって異なりますので取扱説明書等でご確認ください。

検索ボックスから検索

近畿第一ブロック



<http://chakai.com>

近畿第一ブロックや広報活動に関する問い合わせはホームページ、Facebook、または下記メールアドレスまで

kinki.seinen.1@gmail.com

発行日：2022年2月1日

茶道裏千家淡交会青年部 近畿第一ブロック



同風あらかると

第37号
DOFU
A La Carte

発行元：茶道裏千家淡交会青年部 近畿第一ブロック
発行人：ブロック長 中澤利之

DOFU A La Carte
<http://www.chakai.com>

ブロック長よりご挨拶

看脚下 -心と心のつながりを大切に-

茶道裏千家淡交会青年部 近畿第一ブロック

ブロック長 中澤利之 (京都東青年部)

平素より近畿第一地区役員の先生方、親支部の先生方、諸先輩方のご指導を賜り、心より御礼申し上げます。また、ブロック内青年部の皆様のご理解ご協力をいただきまして有難うございます。

昨年より新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も実際に会っての活動を控えオンライン開催となりました。2/7ブロック協議会、10/3ブロック研修会、10/16裏千家学生茶道研究会との合同行事、試行錯誤の中ではありましたがブロック一丸となり創意工夫して、いま出来ることを行ってまいりました。オンライン開催はネット環境が整えばどこでもでき、移動時間も要らず便利なツールである一方、画面越しでのコミュニケーションでは伝わり方が弱いように感じる点もありましたので、オンライン事業を開催するにあたっては共有する時間を有意義なものにするために、会えない皆さまを想う、より強い思いを込めることが心を寄せ合うことになると感じました。それぞれの行事にお気持ちを汲んで取り組んでいただきましたこと、心より感謝申し上げます。今一度、私たち茶道を学ぶ青年茶人として、いま何ができるのか、何が必要なのか自分たちの足元を見つめ直す機会として【看脚下 -心と心のつながりを大切に-】一緒に考え、共に歩んでまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



青年部紹介

滋賀青年部 部長 田中三喜男

今年の青年部活動はコロナ禍の中、試行錯誤の1年間となりました。年始に掲げた目標を達成させようと滋賀青年部役員・会員の皆さんと手探りで企画した活動はまだ道半ばですが、共に学んできたスキルは茶道活動のみならず、普段の生活においても貴重な経験でありました。特に年始から取り組んでおります「Zoom(リモート)茶会」においては、演習・打合せを複数回にわたって実施いたしましたところ、「リモートでの茶道」ということの難しさを痛感することになりました。滋賀ではリモートの知識に詳しい部員が在籍しておりませんので、順調に企画が進行していたわけではありませんが、部員の情熱で着実に課題を克服してゆくことが出来たと確信しております。その他、本年度は、7月末開催いたしましたコロナ感染拡大防止対策を施した「三者合同茶会」において、滋賀県内在学の160名を超える高校生・先生方のご参加をいただき、「コロナ禍における茶道」についての実践例を示せることが出来たと思います。11月には通年行事である「己高庵 秋茶会」など、運営を工夫して150名のお客さまをお迎えしての野点茶会も開催させていただいております。今後も 支部の親先生方ならびにブロック役員の方々のご助言をいただきつつ、滋賀青年部員の皆さんと共に力を合わせて青年部活動に精進したいと考えておりますので、来年度もご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



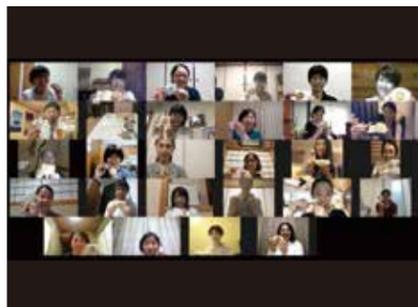
「己高庵 秋茶会」



「三者合同茶会」

奈良青年部 部長 堀田裕美

私たち奈良青年部は令和3年度も先生方、会員の皆様のご協力のもと、活動を行っております。2月の総会、4月のお茶会はオンラインでの開催となりましたが、社中の皆様のご協力いただき、先生方にもご参加いただくことができました。松山青年部、宮津青年部と合同で7月に開催させていただいた「軸の楽しみ方」オンライン講座では、軸ができる過程をMOVIEで見せていただいたり、青年部同士の交流も出来ました。オンラインも活用しつつ、野点等、感染対策にも気を配りながら皆様と同じ空間と時間を共有できる事を検討中です。今後ともどうぞ奈良青年部をよろしくお願いいたします。



奈良青年部 「軸の楽しみ方」



京都東青年部 「ハイキング茶会蓬萊山」



京都市西青年部 「夢浮橋茶会」

京都東青年部 部長 初田英人

本年もコロナ禍でのスタートとなり、総会をはじめ行事はリモートでの開催となりました。そんな中でも安易に中止・延期にはせずに知恵を出し合い活動を致しました。5月には菓子作りの研修会を開催しました。当初はそれぞれがリモートで参加の予定でしたが、数カ所の会場に少人数のグループで別れ、それぞれの会場をリモートで繋いで実施しました。少しの人数でも集まることが出来て有意義な研修会となりました。また、緊急事態宣言が明けた10月にはハイキング茶会として蓬萊山(琵琶湖テラス)にて茶会を開催しました。当日は天候にも恵まれ、天空での一碗を楽しみました。まだまだ、コロナ禍は続くと思われませんが、会員が知恵を出し合い楽しい青年部活動を続けていきたいと思っております。

京都市西青年部 部長 岡野真之

京都市西青年部は『つづける、つながる～強い心と思い～』をテーマのもと活動を展開しています。今年度は当初からコロナ禍によって生活が制限される中であって活動が十分にできないと思われましたが、会員それぞれの努力により3月には書面にて総会を開催し、5月には仁風庵にて青嵐茶会と題してオンライン併用のハイブリッドで、12月には枳殻邸にて夢浮橋茶会をリアルで開催することができました。また、2回のマナー教室を主幹させていただき、子ども達にお茶の素晴らしさを学び楽しんでもらうことができました。解決の糸口が掴めない時は諦めずにチャレンジしつづける「強い心」が必要であり、つい心を取り乱しがちな時は皆でつながり助け合おうとする「思いやり」が大切と感じながら、今後も会員の健康と安全を最優先しながら一つひとつの活動に喜びと楽しみを実感していただける希望ある歩みを進めます。

京都市南青年部 部長 小山元也

京都市南青年部は『一碗から出会いを繋ごう!』というテーマのもと、お茶を通じての人との出会いだけでなく活動や経験なども出会いととらえ、色々な出会いの機会をつないでいくそんな活動になればと思ひ、多くの出会いに学び、楽しむことができる青年部活動となることを目指しています。コロナ禍でも毎月の役員会例会はオンラインで欠かさず開催し京都四青年部連合会では茶道セミナーを担当し、オンラインを活用して開催し全国の皆様にご覧いただくことができました。また納会は「ありがとう茶会」と題し一年間の活動と卒業会員の感謝を込めてお茶会形式で開催しました。今後も仲良く南青年部らしい活動を楽しんで参ります!



京都市南青年部 「ありがとう茶会」

京都北青年部 部長 田中俊幸

2年に渡り続くコロナ禍は日常を非日常に変え、今まで当たり前でできていたことが、実は一つひとつが特別なことであったと気づかされました。京都北青年部は今一度心をひとつに「一座建立」というテーマを掲げ、会員一人ひとりが互いをお思いやり、思うように活動が出来ない中でも、茶道を通して青年らしく失敗を恐れずに、楽しみながら成長していこうと活動して参りました。残念ながら今年も茶会は出来ませんでした。お出かけ茶会・竹籠花入作成体験、オンラインで新入会員を対象としたオリエンテーション、納会を開催し、卒業式では令和2年度、3年度ご卒業の方々をお祝いすることが出来ました。ようやくコロナ禍の出口が見えてきたように思います。令和4年度も、縦と横のつながりを大切に「一座建立」の言葉を心掛け、「こうすればできる」から「こうすれば楽しめる」事業を部員全員で創り上げていきたいと思ひます。奉仕・修練・友情の三信条のもと、魅力ある団体に向かって部員一丸となって取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。



京都北青年部 「納会」



宮津青年部 「総会」



両丹青年部 「ブロック研修会」

宮津青年部 部長 藤田美紀

宮津青年部は「～日々は平常心～続けよう私たちができること」をテーマに掲げました。このコロナ禍という非常時でこそ、平常心を持ち私たちができることを少しでも続けようという意味を込め、青年部としての茶道に関わる活動のみならず、日々の生活でもその心を持ち活かされていたと思っております。総会及び定例会はオンラインで開催したものの、令和3年10月から対面しての定例会を再開しました。やはり、血の通った会議といえますか、闊達な会議となり、オンラインとは違うなと思ひました。まだまだ楽観できない状況ではありますが、出来ることを出来るようにしていきたいと思ひます。

両丹青年部 部長 永登裕芳理

2021年は「こころをつなぐ一盃(いちわん)を」のスローガンの下、1名の新入会員を迎え34名の体制でスタート致しました。今年も活動は控え目でしたが3月にガールスカウトマナー教室を開催致しました。10月にはブロック研修で呈茶を担当させて頂きました。ブロック研修は残念ながらリモートでの開催となりましたが、事前に録画した映像と北部3青年部のおすすめのお菓子をご用意させて頂き、少しでも会場の宮津市の豊かな自然、天橋立の風景や雰囲気を感じて頂けたかと思ひます。2022年はこの2年開催出来なかったお茶会等、積極的に活動出来る事を祈っております。

但馬青年部 部長 井上奈巳

但馬青年部は現在会員30名兵庫県北部の但馬地方で活動しています。2021年の活動はオンライン茶会、お菓子作りなどオンラインでの活動が中心となりました。2022年はオンライン行事と併せて少人数での行事など少しでも会員の皆様に参加しやすい環境を造っていきたくと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



但馬青年部 「オンライン茶会」

『関東第1ブロック ブロックコンファレンス2021』に参加して 宮津青年部 部長 藤田美紀

オンラインにより大変スムーズな進行で滞ることなく、あっという間の時間を過ごさせていただきました。体験型研修において、島津清彦氏から貴重なご講演いただきました。『茶禅一味』と言われるように茶道と深いつながりのある禅についての講話を大変興味深く拝見・拝聴させていただき、座禅というよい経験もできました。コロナ禍というまだまだ落ち着かない世の中ではありますが、「調身⇒調息⇒調心」を心掛けて生活していきたいと思ひます。茶道を介して、自分の知らなかったことや全国各地の茶道を愛する方々とお逢いできたこの機会をいただいたことに感謝します。

近畿第二ブロック ブロック間交流

京都市西青年部 井川 智崇

令和3年6月26日、『和～人と歴史のつながり～』というテーマのもと、ZOOMを用いたオンライン形式にて近畿第二ブロック研修会が開催されました。山本ブロック長のご挨拶の後、総本部挨拶、来賓挨拶、総本部報告、全国委員正副助言がありました。全国委員正副助言では全国代表者会議議長の中谷憲正さまより、青年部活動を通じて得た気づきや学びを今後の活動に生かしていくことの大切さや、コロナ禍においてもZOOMなどの新しいツールを用いた交流を深めていくことの大切さをお話いただきました。全体研修ではランディー・チャネル宗榮先生をお招きし、「水屋での心得」についてご講演いただきました。水屋の段取りが悪ければ何もできない、水屋での感謝の心や心遣いはお席のお客さまにも必ず伝わるなど、水屋がいかに重要な場所なのかをご講演いただきました。また水屋以外にも様々なお話をユーモアを交えてお話いただきました。その後はZOOM上でいくつかのグループに分かれ、オンライン呈茶+記念撮影が行われました。住む場所にとらわれないオンライン研修会だったこともあり、遠くは鹿児島や北海道からの参加者もいらっしゃいました。各青年部のコロナ禍における活動状況を意見交換することが出来、皆さまがオンラインを活用し、コロナ禍においても呈茶や交流を深めようと努力されていることが分かりました。最後はグループ毎に記念撮影を行い、和気藹々と楽しいひとときを過ごすことができました。